

第3回 日本台湾経済関係調査研究会（2021/3/25）

習近平時代の中国外交と米中関係

（講演要旨）

松本 はる香

日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所
地域研究センター 東アジア研究グループ長

習近平政権の権力基盤の形成（第1期目）

● 2012年11月 中国共産党第18回全国代表大会（第18回党大会）

▷ 政治局常務委員 7 名：

習近平、李克強、張徳江、俞正声、劉雲山、王岐山、張高麗

● 2013年 3月 第12期全国人民代表大会（全人代）第1回会議

▷ 習近平が中国共産党総書記、国家主席、党中央軍事委員会主席の全ポストを掌握

● 2016年10月 第18期中央委員会第6回全体会議（6中全会）

▷ 「習近平同志を核心とする党中央」を正式に採択

→ 習近平を「核心」とする「一強体制」の形成

習近平政権の権力基盤の形成（第2期目）

● 2017年10月 中国共産党第19回全国代表大会（第19回党大会）

▷ 政治局常務委員 7 名：

習近平、李克強、栗戰書、汪洋、王滬寧、趙樂際、韓正

▷ 第六世代の指導者候補：胡春華、陳敏爾

「ポスト習近平」の最高指導部の後継者指名なし

● 2018年 3月 第13期全国人民代表大会（全人代） 第1回会議

▷ 国家主席の任期を撤廃する憲法改正案が採択

→ 2022年以降も習近平の続投が可能に

「一帯一路」構想の始動

● 2013年秋 「一帯一路」構想の提唱（2013年秋）

- ▷ 2013年9月～中央アジア地域、10月～東南アジア地域を習近平が歴訪
- ▷ 中国を起点として中央アジアから欧州に至る「シルクロード経済ベルト」と中国沿岸部から東南アジアや中東などを経由して欧州に至る「21世紀海上シルクロード」から成る「一帯一路」構想を提唱

● 2014年12月 「シルクロード基金」の創設

● 2015年3月 「シルクロード経済ベルトと21世紀海上シルクロード共同建設の推進に関するビジョンと行動」を発表

（by 国家発展改革委員会、外交部、商務部）

● 2016年1月 アジアインフラ投資銀行（AIIB）の開業

習近平政権の外交政策の特徴（１）

- 「韜光養晦」（力を隠して時節を待つ）からの脱却か
 - ▷ 韜光養晦＋有所作為（そのなかでやれることをやる）
 - ▷ 韜光養晦＋積極有所作為（積極的になすべきことをなす）
 - よりアグレッシブな外交の展開
- 「中華民族の偉大な復興」と「中国の夢」の提唱
 - ▷ 大国としての中国のプレゼンスを国内外にアピール
 - ナショナリズムの鼓舞
- 「核心的利益」や「海洋権益の拡大」の主張
 - ▷ 「海洋強国」の建設
 - 東シナ海・南シナ海などをめぐる摩擦や軋轢

習近平政権の外交政策の特徴（２）

● 中国の「特色ある大国外交」を推進 〈2014年 中央外事工作会议〉

- ▷ アメリカと「**新型大国関係**」を構築することを追求

● 「**新型国際関係**」の展開を提唱

- ▷ 「**中国の特色ある大国外交**は、**新型国際関係**の構築を推進し、**人類運命共同体の構築**を推進することである」 〈2017年 第19回党大会〉
- ▷ 「人類運命共同体」の構築 = グローバル・ガバナンスの必要性

● 「**一帯一路**」構想の展開

- ▷ 中国をめぐる周辺諸国との関係や国際環境の改善（cf. **平和的發展路線**）
- ▷ 地域のプレゼンスの拡大と権益の確保（新たな摩擦や軋轢を生む可能性も）

● 「**新時代**」の中国（≡「**習近平時代**」） 〈2017年 第19回党大会〉

最近の米中関係 〈概要 1〉

● 米中関係の展開

- ▷ 米国政府の対中姿勢の転換→「対話」のみならず「圧力」も
- ▷ 米中の対立関係は「米中新冷戦」へ？
- ▷ 米国議会における超党派による対中包囲網の形成
- ▷ トランプ政権 = 台湾に対するコミットメント強化 → 今後も継続か

● アメリカでの政権交代と今後の見通し

- ▷ 「アメリカ第一主義」から、「国際協調主義」への回帰か
- ▷ バイデン政権「中国は最も重大な競争相手」
- 同盟関係の重視、多国間の連携強化（日米2プラス2、FOIP、Quad）
- 米中間の対立関係は今後も続く見通しか

最近の米中関係 〈概要 2〉

● コロナ禍でも続く中国の海洋進出

- ▷ 全人代常務委員会における「海警法」の成立（2021/1）

● 新型コロナウイルス感染症をめぐる米中対立

- ▷ 「ポスト・コロナ時代」を見据えた米中覇権争いの様相か
- ▷ 国際公共財建設を通じた国際的影響力の拡大（ex. 「一帯一路」構想）
→ 「健康のシルクロード」や「デジタル・シルクロード」等へ拡大か

● 中国の「核心的利益」に対する姿勢

- ▷ 香港国家安全法の制定（2020/6）、全人代（2021/3）での法改正
- ▷ 新疆ウイグル自治区の問題（ジェノサイド認定等をめぐって）

(参考) 中国の感染者数と死者数 (ジョンズ・ホプキンス大学統計による)

▷ 武漢ロックダウン (1/23~4/8)

▷ 旧正月 (春節) 1/25~

▷ 2月末~3月上旬 数字ほぼ横ばいに
⇒ コロナ封じ込めにほぼ成功か

▷ 3月10日 習近平総書記が武漢入り

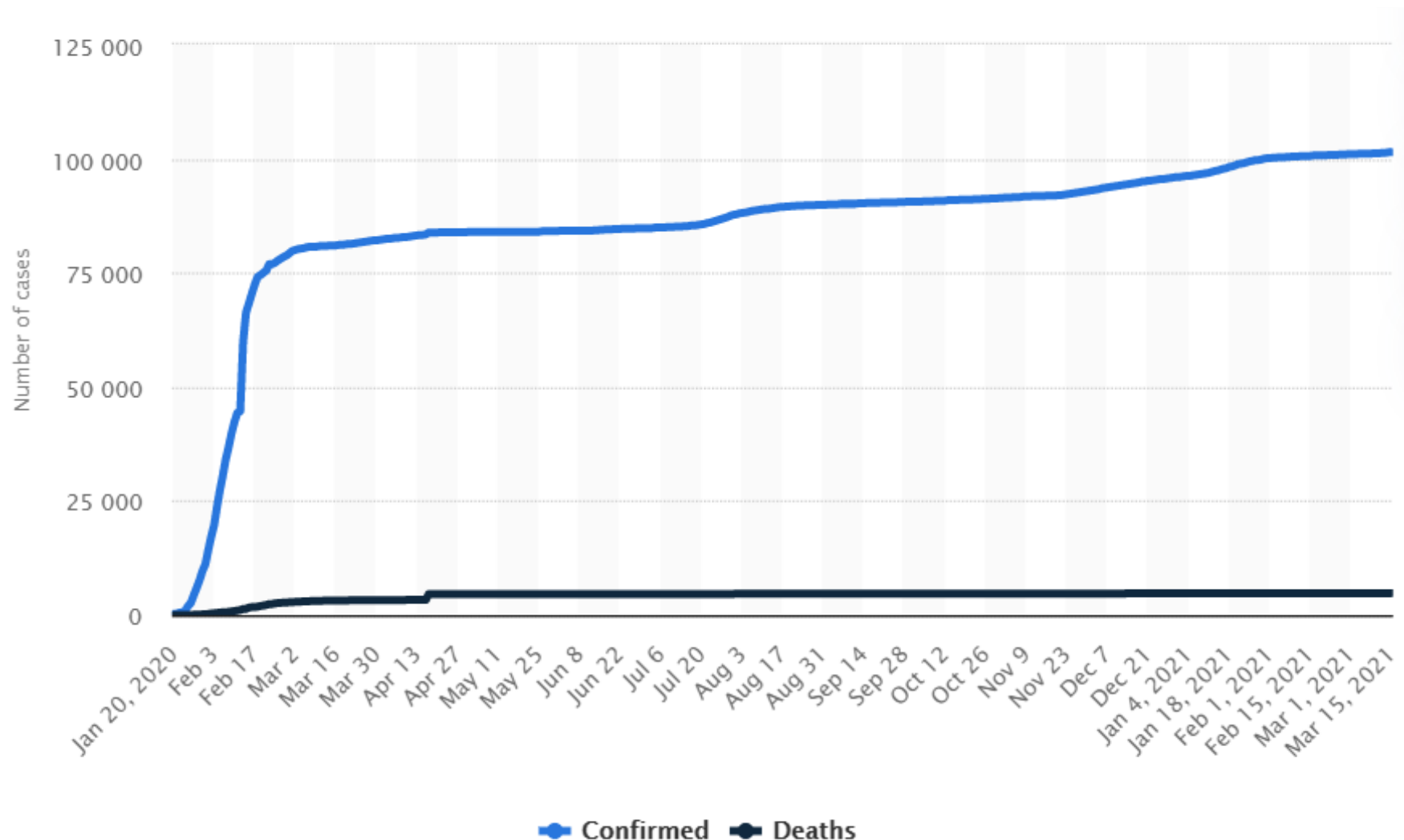
▷ 5月22日~全人代が遅れて開幕

(参考)

中国	感染者数	101,533人
	死者	4,839人

米国	感染者数	29,818,528人
	死者	542,356人

(2021年3月22日現在)



(参考)

- 松本はる香編『〈米中新冷戦〉と中国外交——北東アジアのパワーポリティックス』（白水社、2020年）。
- 松本はる香「蔡英文再選と台湾をめぐる国際関係」IDEスクエア、フォーカス・オン・チャイナ（2020年7月）。
- 松本はる香「習近平政権期における米中関係の展開—「新型大国関係」の模索から「米中新冷戦」へ」『問題と研究』2019年7.8.9号（2019年9月）。
- 松本はる香「『米中新冷戦』の行方——米中関係をめぐる外交・安全保障問題」『東亜』第626号（2019年9月）。
- 川上桃子・松本はる香編『中台関係のダイナミズムと台湾——馬英九政権期の展開』アジア経済研究所 研究双書 No.639, 2019年3月。

近著の紹介

〈米中新冷戦〉と中国外交 ～北東アジアのパワーポリティクス～ 松本はる香 編著（白水社、2020年）



- ◎アジア経済研究所の約2年間の研究成果
- ◎2012年秋～現在の習近平外交の動きに注目。
- ◎北東アジア地域のバイラテラルな関係 (米中関係、日中関係、中朝関係、中ロ関係、中台関係) や「一帯一路」構想などに焦点を当てた書物。
- ◎習近平政権のバイラテラルな外交関係の展開を中心とした、歴史的背景、現状や今後の見通しなどについて、実証的に分析。

目次

序章	習近平政権をめぐる国際関係	松本はる香	7
----	---------------	-------	---

第1章	対立が先鋭化する米中関係	松本はる香	25
-----	--------------	-------	----

「米中新冷戦」の幕開けか

はじめに 25

- 一 中国の「新型大国関係」の追求 26
- 二 米中対立の激化と「米中新冷戦」の行方 34
- 三 米中関係と台湾をめぐる安全保障 45

第2章	再構築へ動きだした日中関係	佐々木智弘	65
-----	---------------	-------	----

米中パワーバランスの変化の影響のなかで

はじめに 65

- 一 日中首脳外交再開の模索 66
- 二 一進一退の安倍首相の訪中の道のり 74
- 三 安倍首相の中国公式訪問の実現 82
- 四 日中関係改善の要因 88

おわりに 92

第3章	同床異夢の中朝関係	堀田 幸裕	103
-----	-----------	-------	-----

北朝鮮の核開発問題をめぐる軋轢

はじめに 103

- 一 建国から二十一世紀初めまでの中朝関係 105
- 二 金正恩・習近平政権の誕生 112
- 三 「非核化」をめぐるかみ合わない菌車 119
- 四 動きだした米朝協議と中朝関係の修復 127

おわりに 133

本の目次
(前半)



本の目次
(後半)



第4章	中ロ蜜月の主導権	熊倉潤	141
	「二帯一路」構想と新疆問題のもたらす影響		
	はじめに		141
	一 中ロ関係と「二帯一路」		143
	二 「二帯一路」とロシア		149
	三 新疆問題の影響		152
	四 上海協力機構の変化と反テロ政策の新たな波紋		157
	おわりに		160
第5章	顕在化する米中覇権争いと中台関係	竹内孝之	171
	翻弄されたのは中国か台湾か		
	はじめに		171
	一 中台関係と馬英九政権——事実上の「二つの中国」の重なる対外行動		173
	二 難航した政治分野の交渉		178
	三 蔡英文政権と中国の関係——裏目に出た強硬策と香港問題の二重苦		188
	おわりに		199
第6章	転換期にある「二帯一路」構想と経済外交	大西康雄	209
	日中経済関係の新展開は可能か		
	はじめに		209
	一 「二帯一路」構想の位置づけの変遷		210
	二 転換を迫られる中国の経済外交		222
	三 日中経済協力の展望		228
	おわりに		233
終章	「米中新冷戦」と中国外交の行方	松本はる香	241
	あとがき		251
	索引 (i)		
	執筆者紹介		

報告者 略歴

松本 はる香（まつもと はるか）

日本貿易振興機構(JETRO) アジア経済研究所
地域研究センター 東アジア研究グループ長

1972年千葉県生まれ。東京外国語大学大学院地域文化研究科国際関係専攻修了，米ジョージタウン大学大学院歴史学部外交史専攻修了。東京女子大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了・博士。日本国際問題研究所研究員などを経て，2005年よりアジア経済研究所研究員，現在，同研究所地域研究センター東アジア研究グループ長。台湾・中央研究院欧美研究所客員研究員（2010-11年），北京大学国際関係学院の客員研究員（2011－2012年）などを歴任。専門分野は，東アジア国際関係史，中国外交，台湾をめぐる国際関係。

主な著作



〈米中新冷戦〉と中国外交
（白水社 2020）



中台関係のダイナミズムと台湾
（アジア経済研究所 2019）